

研究協力をお願い

昭和大学歯科病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

顎骨形成術後の気道容積の変化についての検討

1. 研究の対象および研究対象期間

2013年4月1日から2023年12月31日に昭和大学歯科病院口腔外科で顎変形症の診断で顎骨形成術を受けた患者さん。

2. 研究目的・方法

【目的】顎変形症に対して顎骨形成術は一般的に行われている方法です。近年、顎骨形成術後に気道の容積が変化し、顎骨の移動方式によっては将来の睡眠時無呼吸のリスクとなる可能性が示唆されてきています。しかしながら、顎骨の移動量や様式などがどの程度、術後の気道容積の変化に影響を与えるのか明確な指標はありません。そこで、本研究では、顎骨の移動様式が気道の容積に与える影響を明確にすることを目的としました。

【方法】顎変形症に対して顎骨形成術を行った後、骨の治りや術後の安定性の評価のために、頭部X線規格写真およびCT撮影を行います。これらの画像を用いて、顎骨の実際の移動様式および気道容積を計測し、その相関関係を検討します。

3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2026年3月31日まで。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録：手術時年齢、性別、BMI、予定移動様式

CT画像(術前および術後4±2週、6±2か月、12±3か月)：骨の移動様式、各領域の容積、平面の形態
計測する容積：

- 1) 鼻腔。
- 2) 上咽頭-1：口蓋平面の延長線が軟口蓋に接した箇所からFH平面に平行で咽頭後壁に接する(a)まで。
- 3) 上咽頭-2：aから口蓋垂からaに平行で咽頭壁に接する(b)まで。
- 4) 中咽頭-1：bから上下中切歯切縁中央からaに平行な線が咽頭後壁に接する高さ(c)まで。
- 5) 中咽頭-2：cから舌骨からaに平行な線が咽喉後壁に接する高さ(d)まで。

(J Oral Maxillofac Surg 76:1093.e1-e21, 2018 を参照)

計測する平面：上記の a, b, c, d の箇所の平面の縦横比。

計測する硬組織：上下顎骨の移動量・方向・角度。

頭部 X 線規格写真：セファロ分析（術前および術後 4 ± 2 週、保定時）

1) 角度分析： SNA、 SNA、 SN-Pog、 咬合平面角、 下顎下縁平面角、 Gonial angle、
interincisal angle、 口蓋平面角、 下顎枝後縁平面角

2) 位置分析： ANS、 PNS、 A 点、 B 点、 Pog、 Me、 H(舌骨体最前方部)

5 . 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

6 . 研究組織

研究責任者	昭和大学歯学部顎顔面口腔外科	大場誠悟
研究分担者	昭和大学歯学部顎顔面口腔外科	代田達夫
研究分担者	昭和大学歯学部歯科矯正学講座	中納治久
研究分担者	昭和大学歯学部歯科矯正学講座	芳賀秀郷
研究分担者	昭和大学歯学部顎顔面口腔外科	佐藤 仁
研究分担者	昭和大学歯学部顎顔面口腔外科	田中元博
研究分担者	昭和大学歯学部歯科矯正学講座	北はるな
研究分担者	昭和大学歯学部顎顔面口腔外科	堅田凌悟
研究分担者	昭和大学歯学部歯科矯正学講座	深川真希
研究分担者	昭和大学歯学部歯科矯正学講座	高橋侑嗣
研究分担者	昭和大学歯学部歯科矯正学講座	赤塚加奈子

7 . お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学歯学部顎顔面口腔外科 氏名：大場 誠悟

住所：大田区北千束 2-1-1 電話番号：03-3787-1151